

★ 上海血盟団 吳冕植の活動

南京軍官学校朝鮮人学生が中日関係を決裂させ決戦へとせめ立てる目的で上海に潜入り日本側要人を暗殺する計画を立てていた。いわゆる上海血盟団である。

この情報を入手した上海日本領事館警察では、有吉公使、総領事、上田警察部長などの身辺を厳重警戒する一方団員逮捕に血眼となっていた。

1936年3月6日吳冕植外3名の血盟団員が市街戦の末に日本領事館警察により逮捕された。この事件を国内新聞は次のように報道している。

「日本総領事館警察は6日午後3時過ぎ、中国側公安局の援助のもとに朝鮮人が隠れていた某所を襲撃し街頭で猛烈な格闘をした後、猛血団というテロ団を結成し日本側要人を狙っていた4名の朝鮮人(内1名はOO主義者)を逮捕し直ちに取調べ中である。平安南道出身韓道源32才、平壤出身金勝温22才、京城出身金正根34才、黃海道出身吳冕植44才。

そのうち吳冕植は昭和7年(1932)4月29日上海新(虹口)公園で天長節祝賀当日白川大尉を爆殺しようと植田閨東軍司令官に重傷を被らせた爆弾を作った犯人として、有吉公使の暗殺を計画したが未遂となった元団の首領だといふ。

上海総領事館警察は5・6日両日にめたり共同租界と中國市街で重要な朝鮮人4名を捕えたといふが、彼らは、有吉公使暗殺未遂事件主犯として、このように検挙されたため朝鮮人のテロ運動に大きな影響を与えた。逮捕された朝鮮人猛血団員 韓道源、金勝温、吳冕植、金正根■らは、南京から上海へ潜入り暗殺行為を企んでいたところだといふ。(1936・3・8 東亜日報)

「南京軍官学校在学中の朝鮮学生が朝鮮OO団の指揮を受け日中関係を決裂させる目的で軍官学校朝鮮人学生徒多數を上海に潜入させ、日本側関係当局首脳暗殺を計画していた

ことに、上海総領事館警察は非常に驚きを失し有吉公使、石内 総領事、上田 警察部長などの身辺を厳重警戒する一方犯人逮捕に活動を開始したのは■本紙で即報したところであるが、今、逮捕されたその犯人達は上海領事館警察の取調べを受けていたが23日午前8時に入港した平安丸で同暗殺団中4名が押送され、日下仁川に一時的に留置中であるが、同平安丸は再び上海に向り2名の犯人を仁川に押送するという。」(1936・5・23 東亜日報)

「有吉中国公使事件及び玉観林暗殺事件に関連し昨年6月下旬上海日本総領事館警察に被検され海州に押送された上海血盟団事件に關した治安維持法違反殺人予備、爆発物取締罰則違反事件につき平壤蘆審法院公判ひ次のように言渡された。

金昌根、死刑・吳冕植、死刑・韓道源、3年・金勝恩、3年」(1937・7・22 東亜日報、同日毎日申報)

吳冕植は1925年11月河南省開封馮玉祥が敬愛する軍官学校を卒業し、1930年上海に来て、1931年10月以後は天津、吉林省、海林、浜江省、ハルピンを移りながら、鄭華岩、金聖寿、東鼓東、白貞基、金野蓬、嚴舜奉、李達、李會榮、李圭虎、李容俊、元心昌、鄭海里など無政府主義者と交遊し、上海に在る在中国朝鮮無政府主義者連盟及び南華韓人青年連盟に加入し活動した。

1932年7月李會榮の行動を密告し、彼の逮捕の因となた日帝の走狗李圭瑞、延忠烈を鄭華岩、白貞基、元心昌、金聖寿、李達と協議した結果吳冕植と李達が兩人を南翔立達学院付近に誘引し、自白させた後、絞殺した。

1933年3月17日、有吉公使暗殺を計画する会合に数回参加のうち、準備しておいた爆弾を仙租界民団ソウセイ自動車部前で白正島波と李康勲に伝達した。

1933年3月南翔立達学院で鄭華岩、嚴亨淳、朱烈(金聖寿)、安恭根らと会合し、李鐘漢といふ者を監復と断定して、安恭根に直ちに李鐘漢を立達学院付近常爾康といふ学生の家に誘引し自白させた後、絞殺した。

日本官憲の手先玉観林を廻断する時、1933年7月22日から吳冕植は上海仙租界望志路南永吉里玉観林の家の向かい側中國人の家2階でその動向を観察していたが、鄭華岩と嚴亨淳に連絡を取り、同年8月1日午後9時頃玉勝林の家の前に自動車で到着した時、嚴亨淳が拳銃で彼を射殺するようにした。

1933年10月に金九の招きを受けて、臨政系に属し民族主義運動に専念した。1935年末頃、金九、安恭根らの運動態度が不徹底であり、独善的であるのに不満と不快感を覚え、南京各地で金昌根らと会合し血盟団といふ秘密結社を組織した。他日有為民族主義団体と提携する時まで、上海を舞台とし同地滞留韓人同胞たちから運動資金募集を推し進めた。

鄭華岩の話によれば、吳冕植は金九らの安逸な生活を続ける様に不満を抱いて意志の合う青年同志達と共に愛國団(臨政系)を離脱し、上海に行き南華韓人青年連

盟と合流する意志を表明したが、金助奸団事件(玉觀林事件)後南華連盟と韓國団は深刻な対立関係にあり、それを受け入れることは出来なかつた。それで、金元鳳の義烈団に入り安東方と手を握り活動したが、1936年5月頃日本領事館警察に逮捕され死刑になつたのである。

鄭東悟(海里)は仁川胎生で子供の頃より米国人宣教師に委託され成長したので、英語に熟達し、彼の夫人■陳氏は国立師大を卒業した中国人であつた。海里夫妻は南華連盟韓人青年の貧しい生活を振り返って見れば、連盟の海外活動に献身し功が多かつた。

柳子明が主管した立達学院は南華韓人青年連盟の活動の根拠地的役割を果してゐた。

* 吳冕植の判決文(昭和11年刑控第119号)

本籍 황해道 안악郡 銀紅面上紅里 226番地

無職 楊汝舟、馬仲良、吳哲二、吳冕植 45才

本籍 정성부 新町76番地

住所不定 無職 金昌根 36才

本籍 慶尚 北道 장계郡 文王面 文岳里

無職 장천민 (白雲) 柳澐錫 23才

本籍 평양부 監店里 79番地

住所不定 金革、金景、金勝恩 23才

本籍 慶尚 南道 大同郡 古平面新興里

住所不定 李國華、工少山 二、韓道源 32才

以上の者に対する治安維持法違反、吳冕植に対する殺人及び爆発物取締罰則違反、金昌根に対する殺人未遂及び爆発物取締罰則違反、柳澐錫に対する強盜未遂各被告事件に対する朝鮮總督府検査事中村尚久が開示した審理を行ない次のように処理した。

主文

被告人 吳冕植、金昌根を各死刑に処する。被告人 柳澐錫、韓道源を各懲役5年に処する。被告人 金勝恩に対しては未決拘留日数中60日中1週間を本刑に算入する。

押収された拳銃1丁及び装填弾7個(証第2号)は全て没収する。

理由

被告人 吳冕植は本籍地の私立楊山学校中学部を中退し、京城測量講習所に入所し3ヶ月の講習後平壤大成中学に入學したが、これをやはり中退した。明治44年6月平壤寺洞當業小高坊出張所に測量技術見習生として採用され、約1年間勤務したのち辞職した。その後、帰郷し、郷里洞長に就任し、執務する一方農業を經營した。

大正6年頃再び全州鉱業所に就職を志望して平壤に下りたが、大正8年頃帰郷した。

故郷に滞在中その年3月に発生した「安東小学校事件」に刺激され、朝鮮独立を念願してその実戦運動に従事することを祈念した。

朝鮮日報支局記者として東亜日報支局記者として仕事しながら民族主義者盧鐘均(別名金東守)及び韓貞教(夫、総督暗殺事件関係者)と教誘しめりから送って来た独立新聞を探読していたところ、大正10年10月頃^{中旬}上海大韓臨時政府から独立運動資金募集の為に派遣された洪完基という者が黄海道殷栗面に潜伏していることを知りて同人に会合し、その使命達成に尽力することを約束した。

安東^{アントン}で同人の入鮮を探知するや上^ウ京^キと共に警察の監視網を突破^{ブレイク}脱走^{ホンガル}を警醒^{アラート}府から救出しようとしたが同人が同地で逮捕されたので不可能となった。これにより自身の身辺に危険を感じ^ス京^キと共に仁川及び新義州附近に逃避^{ホーリ}ながら新義州から安東^{アントン}、奉天^{ボンセン}、天津^{チエンタイ}を経由し大正10年11月20日頃上海に到着した。

到着と同時に終生の師として民族運動の巨頭である金九(金九一)と出会い、同人とび上海在留民族主義者と交遊するうち、朝鮮独立実戦運動に専念するようになつた。

被告人金昌根は江城^{カンソン}にある私立新明普通学校在学中父親の希望で中退し、大正6年李王吉のOO隊員となつた。しかし大正9年同隊が解散したので江城^{カンソン}の前記会社次長、印刷職工及び商店等々を順々に転職した。その後大正11年秋同社を辞し安東^{アントン}を経由し同年10月頃上海に渡航した。上海で民族運動の中心人物である正人団長^{ジョンジン}各運亨の言葉に従い同人が設立した正人団の經營する朝鮮人初等教育及び民族意識高揚を目的とした上海仁成学校の給仕となつた。次に同団の經營する朝鮮人中等教育及び民族意識高揚と合わせて民族運動の衛士養成などを目的とした3・1公学校の音楽教師となつた。このように民族意識が漸次濃厚となり朝鮮独立実戦運動に関係した。

被告人柳澐錫は公立普通学校を中退し、養父である伯父(父の長兄)の父母の元で徒食した。

満州事変が起るやこれに刺激され、満州語を勉強する目的で昭和7年10月頃安東^{アントン}県立小学校及び奉天^{ボンセン}初等学校に入学した。奉天^{ボンセン}初等学校在学中^{セヨウノウ}渠^カ江^{カニ}杭州にある中国航空学校に学資金のない者でも入学を許可すると聞いて、昭和8年11月頃^{ハツル}として行つたが、朝鮮人の入学は難しかった。南慶^{ナムギ}及び洛陽^{ナムヨウ}、延慶^{ヤンギ}(別名延慶昊)及び金東守(盧鐘均)など民族運動先覚者と交わるようになり、同人ら民族主義者と教誘するようになり、朝鮮独立を念願してその実戦運動に従事するようになった。

被告人金勝恩は平壤市立崇實中学校第3学年在学中、教師の待遇に不平を主張し停学処分を受けた。

満州事変が勃発するやこれに刺激を受けた。満州語習得を目的として昭和7年3月24日安東省小学校に入学した。続いて5月2日奉天^{ボンセン}小学校に転校して、再び同年7月16日北平知行中学校に入学した。同校在学中、同年4月初旬^{シキ}南慶中央軍官学校出身の李益

星という者の勧めにより上記軍官学校入学を志望して、南慶に行った。ここで副司令官 崔大林、鄭京浩、崔東昊、延圓明、朴南波らと気脈を通じ同じ軍官学校入学志願者白榮七、崔能喜、鄭鵬幹らと交遊しながら民族主義思想に共鸣するようになった。そのようにして、暨江城 嘉興に行って、金九、安敬根、金東守（盧鐘均の別名）張尚変及び被告人吳冕植などの民族主義者から種々の民族運動情報、特に金九を盟主とする愛国団の各種テロ行為、活動状況、朝鮮革命運動の実状などを得た。また軍官学校への朝鮮人入学の目的が中韓合作による独立廟士養成にあるという事実を聞き、一致団結して日本に対抗し朝鮮独立運動の目的達成に努力しなければならないとの激励を受け、結局日本帝国を打倒し朝鮮を独立させなければならぬという決心するに至った。

被告人韓道元は平壤市立中学校を中退し上海在留の叫頭 金礼鎮にたよて、大正14年9月5日上海に渡った。同人の家で起居しながら、大正15年2月 上海電車会社に就職し以来昭和9年に至るまで同社に勤続していたが同年1月中職務怠慢につき罷免された。その後上海日本総領事館勤務藤井警部補と互いに知り合うようになり、朝鮮人諷報員に従事した。

同年7月頃藤井警部補から民族主義の巨頭金九及び金昌根らが中国政府要人 장재식と連絡し、多額の資金及び多量の武器などの交付を受けて反対抗日 朝鮮独立を共同目的とし、その準備工作として独立廟士を養成して卒業者は朝鮮・満州・日本に派遣し、日本・満州の要人暗殺、重要機関破壊など第一線に働くようにするため、中国人・朝鮮青年を入れ校させている南慶軍官学校に内偵の為入校せよとの命令を受けた。その後直ちに同校に入学しながら、在学中民族運動に共鳴し藤井警部補の依頼に違反し、昭和10年4月同校を退学した。その後南慶に在留しながら金九及び金昌根一派のもとで民族運動に専念するようになった。

芽1、被告人 吳冕植は、

1. 大正11年11月初旬頃、当時大韓臨時政府警務局長であった金九から同政府秘書長金革はロシアからの臨時政府運動資金40万ウォンを横領しており、臨時政府強化の為に、同人を殺害しろといふ命令を受けた。

臨時政府は朝鮮を直ちに日本の基盤から離脱させ、日本の國体変革を目的とした結社であることを知りながら、同結社の目的遂行の為、金東守（盧鐘均の別名）と共にこれを受諾して、同人と共謀のうえ金九から拳銃の交付を受けた。

そうして、数日間金革の所在を捜査した後、同月13日午後2時頃、上海麻北浜通路付近の家屋から出て来る同人を発見して直ちに尾行し、付近路上で約2m後方から拳銃を発射し殺した。

2. 同年10月頃 上海で金九、趙尚変らにより祖国光復すねむら朝鮮を日本帝国の基盤から離し独立して日本帝国の國体変革を目的とした韓國獨立会が組織された。これと同一の目的を持つ大韓臨時政府の募兵、合わせて資金募集機關から、10ヶ年計画で1万以上の兵士養成と

百万ウォン以上の戦費を集め、目標達成の日には義勇革命軍を編成して朝鮮独立戦争の開始をもろむ結社であることを知りながら、これに加入した。こうしてその結社の派遣員として祖界 滅玉祥の経営する軍官学校、陸軍兵器工場 鋼刀部に加入してその目的遂行の為行動した。

3. 大正14年11月上記工場を辞し、廣東、大連、成都を経由し昭和4年上海に入った。翌年10月以降 天津、滿州國、 김립성、 海林、 민강성、 ハルビン、 等を徘徊しながら、鄭華岩、朱烈(金寿聖の別名)、車鼓東、白貞基(別号は白鳴波)、金野輝、嚴舜奉(嚴享淳)及び李達、李会榮、李圭虎、千里芳(李容俊の別名)、元心昌、鄭海里などの朝鮮人無政府主義者及び各國無政府主義者と交遊するようになつた。その当時、鄭華岩、李達、朱烈、元心昌及び李圭虎などを幹部とする上海韓人無政府主義者連盟及びその表向きの名である南華韓人青年連盟が私有財産制度の否定、合わせて日本帝国の団体変革を目的とした結社であることを知りながら、当時上海で上記両結社に加入した。

以上両結社の目的遂行の為、昭和7年7月中、鄭華岩から無政府主義者李会榮が日本官憲に逮捕されたのは李圭虎、延忠烈ら両名の密告によるものだと断定し両名を殺害することへの協力を要請された。これに応諾して、鄭華岩と共に南翔立達学院に到り、李達、白貞基、元心昌、朱烈及び李圭虎と会合を持った。そして以上の人員と共に謀し、李達が無政府主義運動の特別工作を共同実行するという嘘で、李圭虎、延忠烈、両名を同学院におびき出して、再び工作資金入手の為上海に行かなければならぬといふ理由で、両名を南翔駅鉄橋付近まで誘引した。南翔駅鉄橋付近に到着するとともに両名を畠の真中に引き入れ、各自密告の事実を詰問し、自白を受けるや携帯していた麻縄でこれら両名を絞殺した。

① 昭和8年3月5日 上海フランス租界福履理路亭元坊白鳴波方で上記連盟員及び各國無政府主義者などの団体である黑色恐怖 団(注: 実際にはない団体、この度の事件で臨時に呼称しようとする名称)の白貞基、鄭華岩、元心昌、嚴舜奉、李康烈、李達、李守鉉(千里芳)、鄭海里及び吳世民(本名 失田部)らと共に会合を持った。この会合で、元心昌の“日本公使 有吉明は日本軍部 荒木陸軍大臣の名により中国国民政府軍事委員長 楊介石を4000万ウォンで買収し満州及び熱河に無抵抗主義を取るようにもろみ、事態は非常に急迫しており、私達無政府主義者は運動基盤を失うところであったので、機会を見て同公使を殺害する必要がある”といふ声に賛同し、以上会合者らと同公使を殺害することを共謀した。これを、李康烈及び白鳴波両名がその実行を担当するようにし、殺害用武器、場所、方法、事後処理などを数次会合し決定して、同公使の写真入手、乗用車登録番号、殺害予定場所である上海共同租界 文路 六三亭付近の地形などをあらかじめ調査しておいた。

同月17日 同公使が 文路 六三亭宴会席に参席し同日午後9時30分頃退出するもういうという通報を受けた被告人はあらかじめ準備しておいた爆弾をフランス租界民団の瑞星自動車部前で白鳴波及び李康烈両名に交付した。兩人は各自拳銃及び爆弾を携帯して、

六三亭付近路上で各々武器を使用し同公使を殺害しようとしたが、行動に着手する前に逮捕され殺人未遂に終った。

④ 昭和8年5月(日未詳)南翔立達学院で鄭華岩と共に嚴舜奉、朱烈(金寿聖)、

などと会合を持った。この会合で李鍾洪なる者を日本總領事館の密偵だと断定して、殺害することを共謀した。こうして同日午後3時頃安恭根が密偵李鍾洪を前記立達学院附近常爾康という学生の家に誘引し、麻縄で同人を脅迫して詰向し、同人が日本總領事館員のもとで活動した事実があるといふ内容の自白をさせ、その場で首を絞め窒息死させた。

⑤ 昭和8年7月22・3日頃 鄭華岩及前記各革命団体から日本官憲の密偵と断定している玉觀彬が日本軍隊から約2万ウォンの賊を提供しながら、日本官憲に革命運動に関する密偵行為をした事実があると判明した。そして、嚴舜奉と協力し、玉觀彬がしばしば出入りする彼の従兄上海フランス租界望志路南永吉里居住玉勝彬の家の向かい側、中国人の家2階で数日間起居した。被告人は玉觀彬が玉勝彬の家に出入りする際同人を射殺しようと待機しながら、鄭華岩と嚴舜奉との連絡をとり、玉觀彬の出入り監視していた。同年8月1日頃(午後9時)玉觀彬が自動車で玉勝彬の家の前に至るその時、嚴舜奉は素早く自動車に近づきながら携帯した拳銃で同人を撃ち即死させた。

4. 昭和8年10月、11月の間に金九に招待され嘉興で再び金九一派に属し民族主義運動に専念していく。昭和9年12月末頃南慶城内木匠宮高安里1号で金九派に属する安恭根、盧泰然及び李義興その他軍官学校卒業者約30名と共に集合した。この場で金九は武力的直接行動で日本帝國の國体変革を目的とした韓国独立軍特務隊という秘密結社を組織することを提起して、その概要を決議した。これにより、特務隊長金九を主軸として、安恭根が参謀長、被告人が秘書として各々任命され、その他財務、偵察、大隊長、中隊長、小隊長など各自役員を定めた。

以上秘密結社を組織して結社の目的遂行の為昭和10年1月以降軍官学校卒業生を上記結社に加入させようと、金九一派が募集した同校入学予備生約30名に対し中国語及び數学などを教えようとこれらを引き卒し、同校に入学させた。こうして同校卒業式に再び列席し金九派卒業生を引き卒して前記高安里に合宿させるなど、その指導にあたった。

第2 被告人 金昌根

1. 大正15年3月頃上海(以下地名未詳)で崔炳善という者の勧誘で上海大韓臨時政府の警察部長・羅昌憲、李裕弼及び張明善といふ者と共に、同政府の勢力衰退に警戒し、大正14年11月頃組織された結社丙寅義勇隊に加入了。

そして、大韓臨時政府を擁護して、同政府の便命である、朝鮮を日本の基盤から離脱させ日本帝國の國体変革に目的を置いた。この目的貫徹のため各種テロ行為で日本の全ての施設に反対して、官庁、銀行などを破壊し、日本側要人、密偵及び親日派を暗殺することと同時に共産党員などの反臨時政府的行動を抑圧しようとするところを詳しく知った。

2. 前記結社の目的遂行により

① 大正15年3月中(日未詳)午後6時頃 チー・ヨン・ソン 張英煥及び金光善と共に各自拳銃を携帯して上海フランス租界望志路所在共産青年同盟会長に解散命令書を交付して3日以内に上記同盟を解散させよう強要した。そのようにして結局これを解散させた。

② 同年4月6日頃 チー・ヨン・ソン フランス租界飛東西路中国人の家で姜日清、李秀峰及び金 カーン・サン などと会合を持った。この席で同人は同志の様態、隊員崔東善(崔炳善の別名)及び張英煥ら兩人が上海日本総領事官に逮捕されいるという知らせを聞いて復讐することを決心した。それと同時に以上被逮捕者の背後には強大な団体があるということを知らしめるための示威をしなければならないという趣旨で煽動された。そのようにして以上会合者達と共に総領事館に爆弾を投入することを共謀した。

同年8月被告人及び金 カーン・サン は各自爆弾1個ずつを李秀峰 は拳銃を携帯して総領事館後側道路を自動車で走行しながら同館建物に爆弾を各自投下した。

③ 昭和8年夜 チー・ヨン・ソン フランス租界盧飯路某中国人の家で朴昌世、キム・チャイセ 貞昌 キム・ジョン 李 イ 昌山、李雲煥及び ユ・イル 順などの隊員達との会合があつた。ここで朴昌世の“運動はまた人衰微しており有名無実な状態にある。だからこの勢力の復活により全ての手段方法を向むく。主義による暗殺、破壊を敢行しなければならない。そして朝鮮独立を果さなければならぬ。”という声に一同は賛同し、行動開始を決議した。これに、朴昌世を隊長に、副隊長に張昌宰など各自役員を互選するなどした。

④ 昭和10年11月上旬、金東守(盧鐘均の別名)から、李泰瑞という者が被告人及び ウ・ソン・ビン を日本の密偵であり、特に被告人は日本総領事館から金をもらい臨時政府の要人金九を逮捕しようとしているという意味のうわさを言いつらじてまわっているという話を聞いた。これに蓄積した被告人は李泰瑞という者が被告人などの民族主義運動家達を阻害する者だと断定して、暗殺することを決心した。ある日、正午頃上海フランス租界霞飛路金家97号李泰瑞の家に入り込み寝ている同人を呼び起した。こうして、秘かに携帯していた拳銃で同人の左側頭部を一度に射撃し、即死させた。

⑤ 昭和10年12月14日～15日頃、以上李泰瑞殺害事件を報告するため南京に行つた。報告と同時に南京城内夫子廟附近着國旅館で金東守(盧鐘均)から“上海日本総領事館勤務藤井警部補は、我々革命家を逮捕する立場にあるから、同人を殺害しろ”という命令を受けて、直ちに上海に帰つた。そして、被告人は爆弾を使用して同人を殺害することを決心して、上海の自宅で爆弾1個を製造した。

同月24～5日頃 上海共同租界所在の藤井警部補官舍正門に前記爆弾を装置して同警部補の外出を待つていたところ、同人が内外に出て來たが爆弾が不発で殺害の目的は達成できなかつた。

⑥ 被告人 金勝恩 は

(1) 昭和9年11月中、南京 軍官学校 朝鮮教官 李青天の指示により 同校学生 高雲起他5~6名で 朝鮮をいわゆる日本帝国の基盤から離脱させて日本帝国の國体を変革すること目的とした韓國軍人会という秘密結社が組織された。そして 高雲起の勧誘で他30名の学生と共に 前記軍官学校にそ の目的を知りながらも加入した。

(2) 昭和10年7月4日 次のとおりの目的を持つ秘密結社に加入了。

(オ1) 親韓独立党、義烈団、韓国独立党、朝鮮革命党、韓国同志会、大韓独立党(以上在中国)、ニューヨーク大韓獨立民団、米国国民会、ハワイ国民会など、朝鮮独立即ち日本帝国の國体変革を目的とした民族主義の運動者の各団体は各自代表者を派遣することにした。

(オ2) 將來 以上各団体間の対立抗争が収まらなければ、國境を犯す盜賊日本を懲らしめる力量が不足し最も効果な成果をあげることができないので、抗日戦線を統一し革命運動に活気を呼び起し、その進路を新たに展開することとする。

(オ3) このためには、強大かつ有力な大同団結体で組織された、民族革命という秘密結社の革命的手段すみわけ全民族革命前線を結成して、朝鮮内に武装部隊を組織し、拡大強化して総動員を準備して敵の勢力とあらわる反動勢力を撲滅する。

(オ4) 以上運動に同情、援助する民族、國家に対してはこれと連絡を計画し、國境を犯す盜賊日本の侵略勢力を撲滅し。

(オ5) 長い歴史、独立・自主して来た国土と主権を回復して、朝鮮民族の自主独立を完成し、日本帝国の國体の変革を目的とする。

以上を目的としたことを知りながらも、被告人は同年7月中(日本詳) 南京城内西毛家宛7号で李承禪の勧誘により 同結社に加入了。

オ4 被告人 吳冕植、同柳宗錫 及び 韓道源 は

1. 昭和10年末頃 金九及び安英根 などが民族運動に専念しないだけでなく独裁的專断的に私利私欲をほいさまにし、部下がえりみなしのので、互に統轄してその將軍の統率下にあるすべての組織を離脱し、南京各地で金東守という者と共に数次会合を持った。その結果、同人と共に昭和11年1月上旬頃南京で朝鮮を日本帝国の基盤から離脱させ日本帝国の國体を変革すること目的に血盟団(別名猛血団)という秘密結社を組織した。

そして、他日有力な民族主義の団体と提携する時まで上海を活動地として、同地で在留韓人から活動資金募集を実施することを協議した。

オ5 被告人 金昌根は

以上オ4で述べた猛血団が日本帝国の國体変革を目的にして組織された結社であることを知りながら、昭和11年1月上旬頃南京でこの結社に加入了。

オ6 被告人 吳冕植、金昌根、柳宗錫、及び 韓道源 は 以上結社の目的遂行の為昭和11年1月中旬頃から同年2月中旬頃までの間に全てフランス租界に居住する韓人である趙尙慶、李甲成、孔凱平(=李東彦)、李鉄錫、朴震、鄭燐星、金河鐘、鄭福用、崔泳汎

などに対し猛血団の活動資金提供を要求した。

そのようにして、최영宅から金200ウォン、朴진から金10ウォン、李哲珍及び황복호から各15ウォンずつ提供された。

オウ 被告人柳宗錫 は

以上猛血団の目的遂行のため、昭和15年2月22日上海の某喫茶店で金東守から従来と同じ方法によつては、猛血団費用募集の成果が思ひしらないので、これを強奪するよう求められた。これにより、被告人は翌日23日前11時頃強盗の目的で共同租界静安寺路、張斗徹の家2階の寝室で同人に拳銃(弾丸装填、符^ガ2号)をつきつけ脅迫し出金を強要した。しかし、同人が隣室に逃れたので、これを追跡しようとしたが、同人の妻に抱きつかれておびひいたところ警官に逮捕され金銭強奪の目的を達成できなかつた。そして、以上被告人吳冕植、同金昌根及び同金勝恩の所為のうち同種の行為(-), 被告人吳冕植のオウの1の殺人の虞を除くは犯の繼續に出たものである。

法律に照らして見るに被告人吳冕植の判示行為のうちオウの1、固体の変革を目的とした結社である点を知りながら加入了点及び以上結社の目的遂行の爲の行為をした点は治安維持法オ1条後段に、オウの3の固体変革及び私有財産制度否認を目的とした結社に加入了また以上結社の目的遂行によりした行為の虞は、あわせて、オウの1の殺人と治安維持法違反の所為は各21個の行為で数個の罪名に抵触する場合であるから、刑法オ54条オ1項前段、オ55条、オ10条を適用し、そのうち最も重いオウの3の(2)の殺人罪の所定刑のうち死刑を選択し、同被告人を死刑に処する。

被告人金昌根の判示行為のうち固体変革を目的とした結社に加入了かつその目的遂行の爲の行為をした点は治安維持法オ1条オ1項後段に、殺人の点は刑法オ119条に同未遂の虞は同法オ119条、オ200条に、人を殺す目的で爆発物を使用した点は爆発物取締罰則オ1条に該当する。以上治安維持法違反の行為及び殺人と同未遂は各自連續した犯行であり、また結社の目的遂行の爲した行為と殺人と同未遂と人を殺す目的で爆発物を使用した行為は各自1個の行為で数個の罪名に抵触する場合に該当するので刑法オ54条オ1項前段、オ55条、オ10条を適用し、最も重い爆発物使用の罪刑にまで所定刑のうち死刑を選択し同被告人を死刑に処する。

被告人柳宗錫 判示行為のうち固体変革を目的とした結社を組織した点は治安維持法オ1条オ1項前段に、以上結社の目的遂行による行為をした点は同法オ1条オ1項後段に、強盜未遂の点は刑法オ236条、オ243条に該当する。以上治安維持法違反の所為は連續犯であり、また強盜未遂と結社の目的遂行による行為とは1個の行為で数個の罪名に抵触する場合であるから、刑法オ54条オ1項前段、オ55条、オ10条を適用し、最も重い治安維持法オ1条オ1項前段の所定刑のうち有期刑を選択して、同被告人を懲役5年に処する。

被告人金勝恩の判示行為は治安維持法オ1条オ1項後段、刑法オ55条に該当するので

所定刑のうち有期懲役を選択し、同被告人を懲役3年に処する。

被告人韓道源の判示所為のうち団体の変革を目的とした結社を組織した時は、治安維持法第19条第1項前段に、以上結社の目的遂行により行為をした点は同法第19条第1項後段に該当する以上の行為連續犯となるから刑法第55条を適用し治安維持法第19条第1項前段の所定刑のうち有期懲役を選択し同被告人を懲役5年に処す。

被告人柳寔錫、韓道源、金勝恩、に対しては刑法第21条により未決期間中60日を各々算入する。

以上本刑に係る押収物件のうち主記載のものは被告人柳寔錫の判示第7の犯罪行為に貢献したことで同被告人以外の者には属さないので、刑法第19条により同被告人に対しこれを没収することとする。

よって本文のとおり判決する。

昭和12年4月16日

海主地方法院 刑事部

裁判長	朝鮮総督府	判事	伊集院文吾
:		:	李禎準
:		:	三川武

以上 謄本である

昭和12年6月5日

海主地方法院 朝鮮総督府 書記 津三 敏二 ④